

水の話 VOL.1



使える水は、わずか0.02%

「水の惑星」といわれる地球、その青く美しい輝きは地球表面の70%を占める海のおかげです。

生命の誕生と生物が生きていくうえで欠かすことのできない水ですが、地球全体の質量に占める水の割合は、わずか0.03%です。

地球上の水の総量は、およそ14億km³といわれていますが、その97.5%は海水です。淡水は2.5%ですが、そのほとんどは氷河や南極・北極などの氷と利用不可能な深層地下水です。

川・湖沼・地下水など、私たちが使える水は地球全体の水のうち、わずか0.02%くらいだといわれています。そのうち、農工業用に使われる水が98%、残り2%が家庭用に使われています。

そう考えると、私たちが生活に使える大切な水は、地球全体の水のうち、ごくわずかしかなことがわかります。



1日に使用する水の量

それでは私たちは、1日にどのくらいの水を使っているのでしょうか。国土交通省の「21年版日本の水資源」によれば、日本人はひとり305リットルもの水を毎日使っているといわれています。

これは40年前の水道使用量の1.8倍に増加しています。内訳は風呂26%、トイレ24%、炊事22%、洗濯20%、洗面その他8%。さらに、私たちの口に入る量はこの中の2%といわれています。

この他にも仮想水と呼ばれる水があります。日本は多くの食糧を輸入していますが、それを日本でつくった場合、どのくらいの水が必要になるかを計算した水の量です。

食パン一斤に必要な水は小麦の生育から含めて500〜600リットル。ステーキに必要な水は、牛の成育に約4,000リットルの水が使われているといわれています。

国土交通省水資源部の調べでは、日本国内での年間の水使用量は約831億tです。それに対して、仮想水量は年間約640億tといわれており、仮想水の輸入量は、日本国内の水使用量の4分の3にも相当します。

仮想水の量



【食パン1斤】
小麦の生育に
500〜600リットル



【ステーキ】
牛の成育に4,000リットル



2.2秒にひとりが死亡

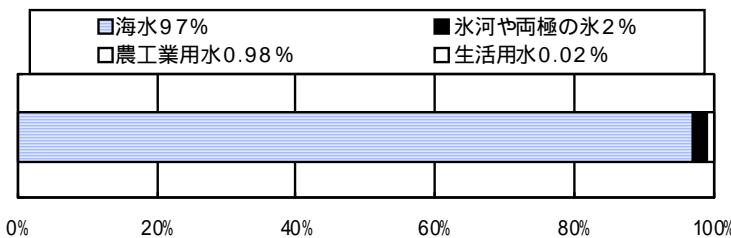
国連児童基金と世界保健機関の発表では、世界で今、8億8400万人が十分な水を得ることができず、開発途上国では、1日3900人の子供が水の汚染が原因で亡くなっているといわれています。

2.2秒にひとりの計算です。

日本は水に関していえば、世界に例がないほど恵まれていました。しかし、近年はその汚染が問題になっています。

私たちひとりひとりの意識と行動が、この大切な水の環境を良くも悪くもしているということを忘れてはならないと思います。

地球の水



1日に使用する生活用水

